

第6単元 合同な図形①

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	10	㊦	【知技】 合同の定義を理解し、合同な三角形を弁別できる。	合同な図形とは、ぴったり重なる形である（形も大きさも同じである）ことを理解させる。
②	50 (各10)	① 頂点B …頂点G 辺CD …辺HE 角A …角F	【知技】 合同な四角形について、対応する頂点、辺、角を見つけることができる。また、対応する辺の長さや角の大きさは等しいことを理解している。	ずらしたり、回したり、裏返したりして、重なり合う頂点、辺、角は、それぞれ対応する頂点、辺、角だということを確認する。 2つの図形がぴったり重なることから、対応する辺の長さ、角の大きさは等しいことを理解させる。
		② 辺EF …2.5cm 角G …135°		
③	20	(略)	【知技】 2つの辺の長さとその間の角の大きさを用いて、合同な三角形を作図することができる。	2つの辺の長さとその間の角の大きさがそれぞれ等しいという条件を使って、合同な三角形をかく手順を確認する。 計器の精度や作図技能の習熟度を考慮し、ある程度の誤差は許容する。
④	20	(略)	【知技】 1つの角の大きさと4つの辺の長さをもとに、合同な平行四辺形を作図することができる。	四角形は、対角線で2つの三角形に分割できることから、三角形の合同条件を2回用いて作図すればよいことに気づかせる。

第6単元 合同な図形②

問題番号	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	㊦	【思判表】 どの合同な三角形のかき方を用いて作図したかを説明している。	合同な三角形をかくときには、1つの辺をひいた後、もう1つの頂点を決めるために、3つの方法があることを確認する。
②	角Cの大きさ (または) 対角線BDの長さ	【思判表】 合同な三角形の作図を基に、合同な四角形をかくために、必要な辺や対角線の長さや角の大きさを考え、とらえている。	平行四辺形は、合同な三角形を2つ組み合わせてできることを確認した上で、合同な三角形をかくためにはあと1つ何が分かればよいかを考えさせる。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	2問	1問	0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。